

孫の手通信



第11号

平成21年12月25日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 050 (5549) 6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

国民宿舎一宮荘・

老人福祉センターについて

はじめに

玉川 孫一郎

国民宿舎一宮荘と併設の老人福祉センターを廃止する条例が、先日の12月議会で可決されました。そこで今回の「孫の手通信」では、この両施設の廃止について、詳細をご説明したいと思います。

【廃止へのスケジュール】

一宮荘は平成22年1月31日に、老人福祉センターは平成22年3月19日に、それぞれ業務を終了します。業務終了後は、ともに平成22年3月31日廃止に向けて残務整理を進めてまいります。

【国民宿舎一宮荘】

国民宿舎一宮荘は、誰でも安く利用できる宿泊施設として今まで大きな役割を果たしてまいりました。

しかし昭和45年築のため建物の老朽化が進んでおり、さらには耐震基準の見直しもあり、耐震改修工事もしくは建て替え工事が必要と判断されています。

そのためには相当な額の資金が必要となりますが、現状はかなりの赤字経営で、それを捻出できる見込みはありません。致命的なことに、時代の変化で利用者が激減しております。平成8年度に1万4千888人だったのが、平成20年度には8千807人と約半減です。この平成20年度の収支を見てみますと、6,989万5千円の収入に対して7,865万5千円の経費、差し引き876万円の赤字です。平成21年はさらに悪化し、1,700万円を超える赤字が見込まれています。

帳簿上はつい最近、平成20年度に赤字に転落したばかりに見えますが、現実はずっと厳しいものがあります。一宮荘には職員が5人います。本来は5人全員を一宮荘の予算（特別会計）で計上しなくてはなりません。そうすると明らかな赤字経営になってしまいますため、3人だけを一宮荘の予算（特別会計）で計上し、残り2人は併設施設である老人福祉センターの予算（一般会計）で肩代わり負担している状態が、ここ数年続いてきました。帳簿の見かけ上よりも前から赤字になっていた実

態があります。

指定管理者制度を活用して再生できないか、民間業者にも打診しましたが、結果は否定的なものでした。

県内で国民宿舎を自治体が直接運営しているのは、わが一宮町と旭市だけとなってしまいました。他の市町村は、廃止か指定管理者制度で民間業者に経営移譲しています。さびしい感じもしますが、全国に広くあった国民宿舎も、時代の流れとともにその役割を終えつつあるといわざるをえません。

【老人福祉センター】

一方、老人福祉センターも昭和50年築であり、同様に建物の老朽化と耐震基準の見直しで、耐震改修工事もしくは建て替え工事が必要となっておりま。

しかし、17・8%（平成20年度）という低い利用率に加え、一宮荘が廃止となると、共用していた風呂・食事がなくなり、今までのメリットも消えてしまいます。また、いずれ取り壊すことになるなら、一宮荘と一緒の方がコスト的にも有利という現実もあります。

ただ、一宮荘と異なり、老人福祉センターは福祉事業であるためその公共性に鑑み、老人倶楽部など現在の利用者に不便をかけないよう、町として代替案を検討しています。

まず、公民館など町の他施設を利用してもらうことを考えております。その場合、公的団体に限って一般より優先的に（裏面につづく）

利用してもらえないように、また利用料金無料化も含めて検討しているところ。さらに不足がある場合は、民間施設の利用料金の一部補助も考えています。

【なぜ今なのか】

両施設の解体費用にはおよそ4千万〜5千万円かかると見込まれております。現段階ならば、特別会計の積立金でぎりぎりまかなえる範囲です。しかしこのまま放置すると、毎年の赤字で積立金を食いつぶしてしまい、解体すらできなくなってしまう。

【さいごにーその後について】

町有地である跡地利用についても、町民のみなさんのご意見をうかがいながら進めてまいりたいと思っております。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ーいあいわいー

今年もあとわずか、この一年を振り返ってみますと、3月に東浪見小学校の大規模改修工事が完了し、5月には新しい松潟堰と一宮橋が完成して、住民の暮らしを支える環境が大きく整備されました。

また、スリムで機動的な役場をめざして、12課を8課に統合しました。

「わかりやすい予算書」を全戸配布して、情報公開を進め、「まちづくり町民提案事業」を

実施して、住民の自主的・自発的なまちづくりを推進してまいりました。

町制施行120周年に当たる来年は、10年先を見据えた新しい町の総合計画を町民の皆様と協働で作成します。一宮中学校体育館の建替え、市民農園の開設、駅エレベーターの設置、巡回バスや乗り合いタクシーの試行運行にも取り組んでまいります。来年も変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。それでは町民の皆様、

良いお年をお迎えください。

一宮町長 玉川孫一郎

平成21年9月27日 千葉日報

【最近の新聞より】

子どもたち夢語る

一宮で九十九里浜シンポジウム

一宮町のホテル一宮シーサイドオーツカで26日、シンポジウム「こんな九十九里になったら」が開かれ、子どもたちが九十九里浜や一宮町への思いを語った。シンポジウムは、昨年9月に「県知事杯エコサーフカップ」を行ったまちづくり団体「99ビーチガード」が中心となり、組織した「エコフェスタ2009実行委員会」が主催、約200人が参加した。一宮町の一宮小、東浪見小、一宮中の児童・生徒らが、九十九里浜や一宮町に



研究成果を発表する県立一宮商業高校の生徒ら
＝一宮町のホテル一宮シーサイドオーツカ

九十九里の自然について講義。参加した地元首長らが中心となり、全参加者で子どもたちの夢の実現方法に

平成21年10月26日 朝日新聞



一宮川河口ゴミ清掃トラック5台分回収 住民ら、ビンや缶など トボトルなどを回収した。写真「南九十九里浜の自然を守る会」(堀内正範会長)が住民運動として取り組んできた清掃作業を引き継ぎ、長生郡市の自治体などで構成する流域環境保全推進協議会が主催した。雨の中、会長の玉川孫一郎・一宮町長も参加した。



平成21年11月6日 朝日新聞

国民宿舎一宮荘

1月で業務終了

老朽化や利用者減少で一宮町が運営する国民宿舎一宮荘(同町船頭船)が来年1月31日で業務を終了し、同年3月31日に廃止されることになった。70年7月に開設して以来、九十九里浜近くの施設として多くの人に利用されてきたが、老朽化による維持管理費増加と近年の利用者減少から廃止を決定したという。耐震施設整備に多額の経費が見込まれるのも廃止の理由になったという。